

社会福祉法人ぶどうの木

2020年度事業計画書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

はじめに

昨年度リニューアルしたロゴス点字図書館(以後ロゴスと記す)のリーフレットには、「一人ひとりの心によりそって」というメッセージを添えました。ロゴスには「考える図書館」という理念があります。この理念では蔵書の特性を規定しつつ、視覚障害者に書物を通じて人生を豊かにするよう導く意味合いが表現されているのに対し、新しいメッセージは利用してくださる方々に対するロゴスの揺るがぬ姿勢を体現しています。

技術の進歩、社会の変化、法や制度の改正など、点字図書館を取り巻く環境が大きく変わろうとしていることは度々お知らせしていますが、そのような状況においてロゴスが何をすべきか、どのような施設であるべきかについて、リーフレット改定の作業を通して考えた結果、むしろ変わらないもの、変えてはいけないものにこそロゴスの神髄があることに改めて気付かされました。ロゴスが小規模ながらも存在感を発揮できているのは、明確な理念の存在に加え、職員・ボランティアの別なく、業務に携わっている人それぞれが視覚に障害のある利用者の役に立ちたいという強い思いを抱いて関わっている点にあります。その思いは決して直接目に見えるものではありませんが、図書を利用されている方々へ必ずや届いているものと信じています。

2020年度は東京パラリンピックの開催も相まって、障害者に脚光が当たることの増える一年になりそうです。だからこそロゴスが本当にやるべき仕事を見つめなおし、これからも着実な歩みを遂げられるよう、以下の五つを2020年度の重点項目といたします。

1. 利用者数減少対策

ロゴスは小規模であることに加え、選書に個性のある図書館であることから、必ずしも利用者数の多さが評価指標になる訳ではありません。ただ、もし何も対策を講じないのであれば、仮に一定の魅力があったとしても、新しい利用者が増えない限り利用者数は減少の一途をたどることになり、ロゴスにおいてもそれは例外ではありません。

ロゴスではこの状況を深く受け止め、利用者減少対策を優先順位の高い課題と決めました。課題に対する解決の方向性は、これまで以上に潜在的な利用者に対してコミュニケーションを取る方法を充実させるとともに、複数ある事業それぞれでロゴスの魅

力を高め、それらの間に相乗効果を生み出すことで、組織全体の活性化を促すことが有効であると考えています。

具体的には、以下のような施策を推進して参ります。

(1) コミュニケーション力の強化

2020年度より本格的に改修作業を進めるホームページの活用により、潜在的な利用者にもロゴスの事業内容を知っていただく機会を広げます。さらに、従来は電話を主たる相談の受付手段としていましたが、開館時間に電話をするのが難しい利用者や障害の特性上電話の利用が困難な方がいらっしゃることを考慮し、受付専用のメールアドレスを開設するなど、利用者のアクセシビリティに最大限配慮した選択肢を提示できるようにします。

また宗教や哲学といったロゴスの強みとなる蔵書体系に興味のありそうな属性のある人々に照準を絞ることで、潜在的な利用者の開拓に努めます。

(2) 相談業務の充実

図書の貸出とは別に、当事者もしくはその家族からの相談は、これまでも対応して参りましたが、積極的に告知して希望者を募ることはありませんでした。2020年度はホームページや定期発行物「ロゴスのほん箱」などを通して事業を周知することで、利用者からの相談に対して柔軟にお応えしていけるよう基盤を整えます。従来の生活相談だけでなく、近年注目の高まっているIT機器類についても広く対応することで、それらを入り口として図書館の利用促進につなげていきます。

(3) 地域貢献事業の拡充

地域貢献の一環として行ってきた中途失明者の点字教室を、「見えない・見えにくい人のための点字教室」と改称し、対象者により親しみやすさを感じていただくとともに、近隣の自治体にも広く呼び掛けることで新しい受講者の掘り起こしを図ります。また、潜在的にニーズの高いスマートフォンなどのIT機器類の教室についても、試験的に開講できるかを検討し、講座の充実に努めます。

(4) 定期発行物の活用

利用者向けに提供している定期発行物には主に新刊案内「ロゴスのほん箱」と点字・録音雑誌「あけのほし」がありますが、これらは必ずしも両方を併せてご利用の方ばかりでないのが現状です。双方の購読者が独立して存在するというよりは、互いに双方の魅力が伝わるような誌面作りを工夫することで、利用者を相乗的に拡大することを目指します。

加えて支援者向けのニュースレター「通信あけのほし」でもロゴスの魅力を伝え、利用者をご紹介いただけるようコミュニケーションを図ります。

2. 蔵書製作体制の見直し

ロゴスにおいて最も中心的な業務である図書製作について、点字図書製作と録音図書製作の情報共有・連携をこれまで以上に強めます。

これまでのロゴスでは、点字図書製作と録音図書製作が連携するというよりは、それぞれが独立して製作を行ってきました。その背景には、一冊でも多くの図書を重複することなく製作した方が、利用者ニーズに応えられるという考え方がありました。また、点字図書を利用する場合と録音図書を利用する場合ではニーズが違うため、それぞれがそれぞれに適した蔵書を作るべきという考えもあったようです。ただ、利用者ニーズの多様化する昨今の状況を鑑みると、読みたい本が点字しかない、あるいは録音しかないという状況では、むしろサービスの質の低下を指摘されかねず、両部門が密に連携して選書や製作の方針を共有して業務を進める重要性はますます高まっています。

上記の課題をもとに、2020年度は選書委員会が過去に選定した図書に縛られることなく、利用者のニーズとロゴスの理念がともに満たされる蔵書を効果的に製作していけるよう、点字・録音図書製作いずれもが共通し、以下の優先順位で方針を定め、蔵書製作を進めていくことといたします。

- ① 理事長もしくは館長が、点字もしくは録音またはそのいずれの媒体においても最優先にロゴスの蔵書にすべきと判断した図書
- ② 利用者からのリクエスト及びプライベートで製作依頼を受けたものであって、ロゴスの理念に合致する図書
- ③ 点字図書にあって録音図書にない、またはその逆の蔵書であって、利用者から製作依頼のあった図書

※ その他、歴史的に見て価値が高く、長く読み継がれる図書について、未着手であれば積極的に製作リストに加える。またすでに蔵書にありながら劣化が進んでいるものについてはデジタル化、再点訳などを進め、蔵書の保全に努める。

選書方針の見直しとともに、製作面でも利用者ニーズと生産性のバランスを図る取り組みを行います。ロゴスの録音部門では、同じ音源を元にデイジー図書とテープ図書の両方を製作していますが、テープ図書のニーズは年々減少しています。ロゴスでは利

用者のいる限りテープ図書を提供していく方針に変わりはありませんが、2020年度は新しい取り組みとして、デイジー図書からテープ図書を作るのに効率化の図れる仕組みを導入します。AB面の切り替えやテープが変わるところに自動で適切な処置を施せるため、製作にかかる時間や手間の大幅な軽減が期待されています。これにより、テープ図書を継続して製作しつつ、近年急速にニーズの増大しているデイジー図書の製作に、よりいっそう注力することができるようになります。

製作タイトル数については、情報共有や効率化を進めることで、点字・録音ともに前年度を上回る完成数を目指します。

3. 「場」を重視したボランティア育成

ロゴスの事業は数多くのボランティアの方々によって支えられています。特に前述の蔵書製作ではボランティアの皆様のご協力があつてはじめて事業が成立するというほどに重要な役割を担われています。昨今では技術の進展も相まって必ずしもロゴスへ来ていただかなくともボランティアの役割を担っていただくことは十分に可能です。とりわけ専門性の高い蔵書製作をお願いする関係上、ボランティアの方の居住地は広域にわたっています。ただ、その一方で昔ながらの「場」を共有することがボランティアの方に有益である点を十分に鑑み、2020年度も様々な研修や勉強会を点字・録音各部門で実施いたします。

録音部門ではこれまで通り定期的な勉強会を毎月実施し、ボランティアのスキルとモチベーションの向上を図ります。一方、全体研修以外の勉強会開催をしばらく取りやめていた点字部門でも、録音部門のノウハウを参考にして、2020年度より定期的にボランティアの方が集って問題を共有する勉強会を毎月開催します。さらにはこれまで互いに接点のなかった点訳・音訳ボランティア相互の交流と親睦を図るべく、合同勉強会の実施やボランティアの集いを企画し、新しい価値を生み出す相乗効果をここでも目指して参ります。

4. 出版事業の見直し

ロゴスは図書館業務のほか、点字出版を事業として行っています。図書を入手したい利用者にとって一定のメリットがある一方で、最近ではインターネットを介したサピエ図書館の充実により、図書の性質によっては必ずしも出版図書が利用者にとって最善とは言えなくなっているのが実情です。

ロゴスではこうした状況を鑑み、今後の出版事業と蔵書製作の在り方を見直すとともに、2020年度は、出版図書目録に掲載されている図書を改めて精査し、より利用者のニーズを満たす蔵書体系への移行を進めます。

5. 働き方改革の推進

法改正を受けて修正を図った就業規則をもとに、2020年度は固定残業制と有給休暇の時間取得制度を導入し、残業時間の抑制と柔軟な働き方を実現します。

また、社会情勢や職員の要望などを総合的に勘案し、労務関連の諸制度を整備しながら、職員の満足度と業務の生産性の向上を目指して参ります。

2020年度は上記のほか、恒例のチャリティ映画会を10月に開催します。2019年度にはじめて出店した江東区民まつりについても、地域とのつながりを深められる上、利用者・支援者の拡大にも寄与することから、参加する予定です。

法人運営については、理事会を年3回、定時評議員会を1回開催します。また2021年度は役員に加え評議員改選の年に当たるため、評議員選任解任委員会を招集し、候補を選定することになります。

一人ひとりの心によりそう図書館、必要とする人すべてに開かれた図書館として、ロゴスがこれからも発展を続けていけるよう、役職員一同精一杯努めて参ります。

2020年度 ロゴス点字図書館 事業一覧

点字・録音図書の貸出・レファレンスサービス

点字・録音図書の問い合わせ対応、郵送による図書の貸出

点字・録音図書（デイジー、テープ）の製作

図書の製作（点訳・音訳）とサピエ図書館への蔵書データ登録

点字図書出版

ミサ用リーフレット「聖書と典礼」

「教会暦と聖書朗読2021年版」

「点字技能師検定試験の対策（第20回）」

点字・録音物製作

名刺・表示等の点字版や各種印刷物の点字版・録音版の受注製作

定期刊行物の製作（点字版・録音版）

新刊図書案内・情報誌「ロゴスのほん箱」発行（隔月）

オリジナル点字・録音雑誌「あけのほし」（毎月）

「カトリック視覚障害者情報連絡協議会 目録」（年3回）

プライベートサービス

点訳・音訳・対面朗読等

ボランティアの育成・連携

点訳・音訳ボランティアの養成講座・勉強会・交流会の開催

ボランティア団体との連携

点字教室の開催

「見えない、見えにくい人のための点字教室」開催（月2回）

生活相談・社会参加支援

本人・家族からの生活相談・IT機器利用支援等（随時）

広報・啓発活動

支援者向けニュースレター「通信あけのほし」の発行（年4回）

チャリティ映画会の開催

区民まつりの参加、講師の派遣、見学の受け入れ

他団体との連携

日本盲人社会福祉施設協議会（情報サービス部会・点字出版部会）

全国視覚障害者情報提供施設協会（サービス委員会著作権プロジェクト）等

関東地区点字図書館協議会